

歩掛等参考見積募集要領

次のとおり歩掛等参考見積を募集します。

令和8年3月10日

独立行政法人水資源機構

琵琶湖総合管理所長 石橋 一恭

(公印省略)

1. 目的

この歩掛等参考見積の募集は、琵琶湖総合管理所で予定している工事の積算の参考とするための作業歩掛及び資機材の参考見積を募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和7・8年度一般競争(指名競争)参加資格業者の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」(平成6年5月31日付け6経契第443号)に基づき、淀川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な作業員、資機材の人数等を別紙-2に記載して提出して下さい。
- (2) 提出期間：令和8年3月17日(火)から令和8年3月24日(火)まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、
9時00分から17時00分まで(12時～13時を除く)
- (3) 提出先
独立行政法人水資源機構 琵琶湖総合管理所長 石橋 一恭 宛
【担当】管理課 砂野(スナノ)
〒520-0243 滋賀県大津市堅田2-1-10
電話 077-574-0680 FAX 077-574-1739
MAIL mizu-soukan@green.ocn.ne.jp
- (4) 提出方法
書面は持参、郵送、FAXまたはメール(社印があること)により提出して下さい。
(社印は「本件責任者及び担当者」の氏名及び連絡先の明記により省略可能です。)
本依頼を辞退される場合は、書面(様式は自由)により通知して頂けますと幸いです。
- (5) 参考見積書の有効期間
発行日から令和9年3月末日としてください。

4. 参考見積内容

(1) 工事基本条件

別紙-1 をご参照ください。

(2) 工事作業項目、作業内容

別紙-2 をご参照ください。

(3) 工事費の構成と歩掛見積徴取範囲

① 本歩掛参考見積を適用する工事費の構成は、当機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（各編）」（以下「基準書」という。）、公益財団法人 日本港湾協会が発行する「港湾土木請負工事積算基準」によるものとします。

② 歩掛参考見積徴取範囲は基準書で定義されている直接工事費のうち、上記(2)「工事作業項目、作業内容及び作業数量」を実施するために必要な作業員の人数等及び資機材等単価を徴取します。提出様式は別紙-2をご参照下さい。

(4) 作業員の職種と定義

国土交通省が公表している「令和8年度公共工事設計労務単価」における「調査対象職種の定義・作業内容」によるものとします。

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

(1) 提出期間：令和8年3月11日(水) から令和8年3月13日(金)まで
持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、
9時00分から17時00分まで（12時～13時を除く）

(2) 提出場所：3. (3) に同じ。

(3) 提出方法：3. (4) に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

令和8年3月17日(火)までにホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

誠に勝手ながら参考見積提出者の負担とします。

8. 問合せ

提出していただいた参考見積書について、こちらから問合せを行うことがあります。

9. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで、工事の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、工事積算の目的以外には使用いたしません。

以上

沖島鋼管杭撤去工事（仮称）

見 積 仕 様 書

独立行政法人 水資源機構

琵琶湖総合管理所

第1章 構造物撤去工

第1節 鋼管杭等撤去工

1-1 鋼管杭等撤去工（共通事項）

1. 施工方法

沖島総合自動観測所の局舎側既設鋼管杭、採水塔側既設鋼管杭及び採水塔踊場鋼材を撤去し、クレーンで台船に積み込み、揚陸施設へ運搬し揚陸するものとする。

2. 施工方法の変更

既設鋼管杭等撤去の施工に際し、当初予測し得ない事象(琵琶湖水位の変動及び湖底の土質状況等)により、施工方法の変更また鋼管杭の引抜きが不可能な場合やこれに伴う使用機械の変更が生じる場合については監督員と協議するものとし、監督員が認める場合は、設計変更の対象とする。

なお、施工時の琵琶湖水位は B. S. L. $\pm 0.0 \sim -0.3\text{m}$ 程度を想定している。

1-2 採水塔踊場鋼材等撤去

採水塔側既設鋼管杭の撤去を行う前に、採水塔踊場鋼材及び標識灯の撤去を行うものとする。採水塔踊場鋼材等の撤去に当たっては、クレーン付き台船による作業を想定しており、引抜後は、杭等運搬用の台船に積込むものとする。

1-3 ウォータージェット配管系部材取付

バイプロハンマ工法（ウォータージェット併用）の施工に支障の無いようにウォータージェット用配管系部材を外挿管に取付けるものとする。

1-4 局舎側既設鋼管杭撤去

既設鋼管杭の引抜に先立ち、バイプロハンマ工法（ウォータージェット併用）にて外挿管を打設することで基礎地盤と既設鋼管杭の縁切りを行った後に、外挿管及び既設鋼管杭をバイプロハンマ工法での引抜を行うことを想定している。引抜後は、杭等運搬用の台船に積込むものとする。

現地状況等から、上記内容での施工が困難な場合は監督員と協議するものとし、監督員が認めた場合は、設計変更の対象とする。

1-5 採水塔側既設鋼管杭撤去

既設鋼管杭の引抜に先立ち、バイプロハンマ工法（ウォータージェット併用）にて外挿管を打設することで基礎地盤と既設鋼管杭の縁切りを行った後に、外挿管及び既設鋼管杭をバイプロハンマ工法での引抜を行うことを想定している。引抜後は、杭等運搬用の台船に積込むものとする。

現地状況等から、上記内容での施工が困難な場合は監督員と協議するものとし、監督員が認めた場合は、設計変更の対象とする。

1-6 外挿管

外挿管（ $\phi 800\text{mm} \times t12\text{mm}$ $L=29.00\text{m}$ ）は、12m 以下に分割して搬出入を行うことを想定している。このため、搬入時は溶接を行うもと共に搬出時は切断を行うものとする。

また、使用後にスクラップ材として引き取りできるよう丁寧に扱うものとする。

1-7 既設鋼管杭等運搬・揚陸

既設鋼管杭等の撤去後、次に示す揚陸施設に運搬・揚陸するものとする。なお、関係機関等との協議により揚陸施設を変更する場合がある。その場合は、監督員の指示によるものとし、設計変更の対象とする。

(1) 揚陸施設：長命寺揚陸施設

解体現場から片道運搬距離約 5.2 km (湖上運搬)

1-8 既設構造物付近での施工

受注者は、鋼管杭等撤去工の施工に際し、既設構造物等を損傷させないよう十分注意して施工しなければならない。万一、既設構造物等に損傷等を与えてしまった場合は、速やかに監督員に報告するとともに修復方法等について協議するものとする。

なお、修復等は受注者の責により行うものとし、修復等に要する費用は、受注者の負担とする。

第2節 撤去物処理工

1. 撤去物の処理

受注者は、鋼管杭等撤去工において発生する解体材等については、次に示すとおり処理を行うものとする。

(1) 局舎側既設鋼管杭切断

スクラップとして引き取りできるよう円周方向及び鉛直方向に切断を行い、1.2m 未満になるようにするものとする。

また、鋼管杭部分と内部のコンクリート殻が分別可能となるように切断するものとする。

(2) 採水塔側既設鋼管杭切断

スクラップとして引き取りできるよう円周方向及び鉛直方向に切断を行い、1.2m 未満になるようにするものとする。

また、鋼管杭部分と内部のコンクリート殻が分別可能となるように切断するものとする。

(3) 既設鋼管杭内部コンクリート破砕

既設鋼管杭切断後、既設鋼管杭と内部コンクリートを分別し、内部コンクリートを 30 cm 程度以下の大きさまで破砕するものとする。

第3節 その他

1. 受注者は、鋼管杭等撤去にあたっては気象等に十分留意し、台風の接近等による琵琶湖水位の急激な変動や強風が予測される場合は監督員と協議するものとする。

鋼管杭撤去(歩掛等) 記入様式例

●工事作業項目、作業内容

※①～⑦の項目における表は、水資源機構が想定しているものであり、貴社の仕様に変更していただいても構いません。

※作業員数等を記入し、必要に応じて職種は追加又は削除して下さい。

※工事中に行う濁水防止対策として汚濁防止フェンスを想定しています。(汚濁防止フェンスの設置、撤去、損料等の費用は見積の対象外です)

※②～⑦の項目については、日当り施工量について記載をお願い致します。

① 採水塔踊場鋼材等撤去

1式 あたり

No.	項目	規格	単位	数量	備考
1	溶接工		人		作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
2	普通作業員		人		作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
3	酸素	ボンベ	m3		
4	アセチレン	ボンベ	kg		
5	クレーン付台船運転	クローラクレーン120t吊+台船1,000t積	日		
6	台船運転(杭等運搬用)	鋼400t積	日		
7	諸雑費(率)	労務費の●%	%		諸雑費が必要な場合は、備考欄に内容を記載の上、規格欄に労務費(対象No.●、●)の●%と記載してください。

※諸雑費は、ガス切断機、ガス調整器の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する

② 局舎側既設鋼管杭撤去

1本（日施工量

本）あたり

No.	項目	規格	単位	数量	備考
1	バイプロハンマ[電動式・普通型]運転	120kw	日		日当り運転時間・供用日数を備考欄に記載してください。 日当り運転時間：●時間、日当り供用日数：●供用日
2	鋼管チャック	120kw用	日		日当り運転時間を記載してください。 日当り運転時間：●時間
3	ウォータージェット運転	250kw 台数3台 噴射ノズル8台	日		3台分の延べ日当り運転時間・供用日数を記載してください。 延べ日当り運転時間：●時間、延べ日当り供用日数：●供用日
4	クレーン付台船運転	クローラクレーン120t吊+台船1000t積	日		日当り運転時間・供用日数を備考欄に記載してください。 日当り運転時間：●時間、日当り供用日数：●供用日
5	台船運転(杭等運搬用)	鋼400t積	日		日当り運転時間・供用日数を備考欄に記載してください。 日当り運転時間：●時間、日当り供用日数：●供用日
6	引船運転(クレーン付台船用)	鋼D450PS型	日		
7	引船運転(杭等運搬台船用)	鋼D450PS型	日		
8	土木一般世話役		人		
9	とび工		人		
10	普通作業員		人		
11	特殊作業員		人		
12	発動発電機運転(バイプロハンマ用)	[ディーゼルエンジン駆動]400kVA	日		
13	発動発電機運転(ウォータージェット付属水中ポンプ用)	[ディーゼルエンジン駆動]35kVA	日		
14	配管系部材(転用部材)	ウォータージェット損料の●%	%		規格欄にウォータージェット損料の●%を計上と記載してください。

③ 採水塔側既設鋼管杭撤去

1本（日施工量

本）あたり

No.	項目	規格	単位	数量	備考
1	バイプロハンマ[電動式・普通型]運転	120kw	日		日当り運転時間・供用日数を備考欄に記載してください。 日当り運転時間:●時間、日当り供用日数:●供用日
2	鋼管チャック	120kw用	日		日当り運転時間を記載してください。 日当り運転時間:●時間
3	ウォータージェット運転	250kw 台数3台 噴射ノズル8台	日		3台分の延べ日当り運転時間・供用日数を記載してください。 延べ日当り運転時間:●時間、延べ日当り供用日数:●供用日
4	クレーン付台船運転	クローラクレーン120t吊+台船1000t積	日		日当り運転時間・供用日数を備考欄に記載してください。 日当り運転時間:●時間、日当り供用日数:●供用日
5	台船運転(杭等運搬用)	鋼400t積	日		日当り運転時間・供用日数を備考欄に記載してください。 日当り運転時間:●時間、日当り供用日数:●供用日
6	引船運転(クレーン付台船用)	鋼D450PS型	日		
7	引船運転(杭等運搬台船用)	鋼D450PS型	日		
8	土木一般世話役		人		
9	とび工		人		
10	普通作業員		人		
11	特殊作業員		人		
12	発動発電機運転(バイプロハンマ用)	[ディーゼルエンジン駆動]400kVA	日		
13	発動発電機運転(ウォータージェット附属水中ポンプ用)	[ディーゼルエンジン駆動]35kVA	日		
14	配管系部材(転用部材)	ウォータージェット損料の●%	%		規格欄にウォータージェット損料の●%を計上と記載してください。

④ 外挿管溶接

1箇所（日施工量

箇所）あたり

項目	規格	単位	数量	備考
溶接工		人		日当りの作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
電気溶接機 [半自動アーク溶接機]	500A	日		
発動発電機 [ディーゼルエンジン駆動]	排出ガス対策型(第1次) 100/125kVA	日		
諸雑費(率)	上記合計額の●%	%		諸雑費が必要な場合は、備考欄に内容を記載の上、規格欄に上記合計額の●%と記載してください。

⑤ 外挿管切断

1箇所（日施工量

箇所）あたり

項目	規格	単位	数量	備考
溶接工		人		日当りの作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
普通作業員		人		日当りの作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
酸素	ボンベ	m3		
アセチレン	ボンベ	kg		
諸雑費(率)	上記合計額の●%	%		諸雑費が必要な場合は、備考欄に内容を記載の上、規格欄に上記合計額の●%と記載してください。

※諸雑費は、ガス切断機、ガス調整器の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する

⑥ 局舎側既設鋼管杭切断

1本（日施工量

）あたり

項目	規格	単位	数量	備考
溶接工		人		日当りの作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
普通作業員		人		日当りの作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
酸素	ボンベ	m3		
アセチレン	ボンベ	kg		
諸雑費(率)	労務費の●%	%		諸雑費が必要な場合は、備考欄に内容を記載の上、規格欄に労務費の●%と記載してください。

※諸雑費は、ガス切断機、ガス調整器の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する
 ※局舎側既設鋼管杭切断は、1本当り55.7m(円周長×8箇所+鉛直方向10.1m×4箇所)の切断を想定しています。

⑦ 採水塔側既設鋼管杭切断

1本（日施工量

）あたり

項目	規格	単位	数量	備考
溶接工		人		日当りの作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
普通作業員		人		日当りの作業員の人数を記載してください。 国土交通省の公共工事設計労務単価に基づき計上します。
酸素	ボンベ	m3		
アセチレン	ボンベ	kg		
諸雑費(率)	労務費の●%	%		諸雑費が必要な場合は、備考欄に内容を記載の上、規格欄に労務費の●%と記載してください。

※諸雑費は、ガス切断機、ガス調整器の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する
 ※局舎側既設鋼管杭切断は、1本当り148.9m(円周長×24箇所+鉛直方向長27.65m×4箇所)の切断を想定しています。

鋼管杭撤去(資機材等) 記入様式

●基本条件

※資機材等単価は現場着単価とし、消費税を含まないようにして下さい。

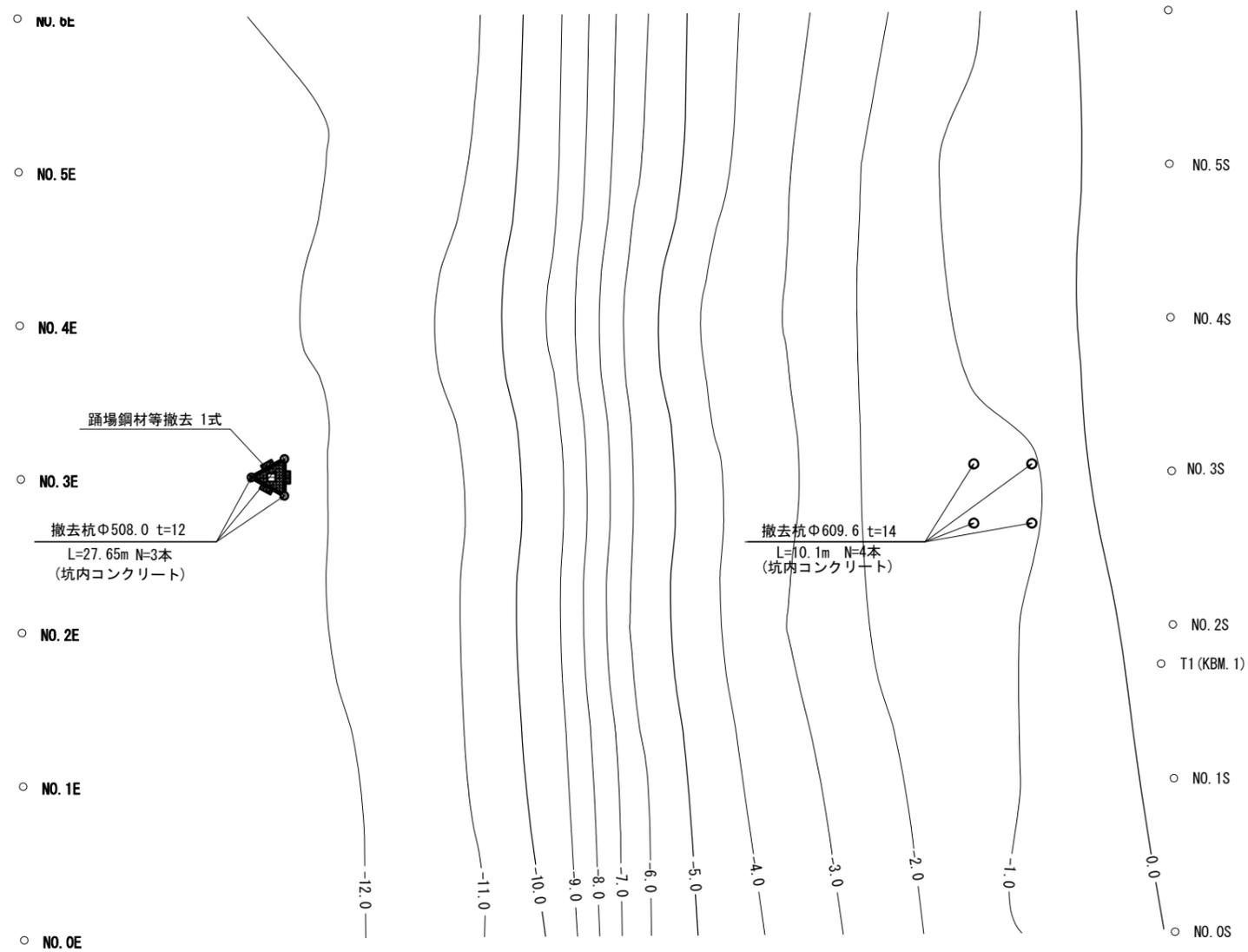
① ウォータージェット配管系部材費用

項目	規格	単位	単価	備考
足長ノズルベースコンプリート	4孔式 25A×sch80 L=11m	基		
導水パイプコンプリート(A)	50A×sch80 L=17.35m	本		
パイプ支持材	φ22 L=50mm	個		
パイプ支持材	φ22 L=100mm	個		
パイプ支持材	φ22 L=150mm	個		
ノズル保護材	L100×L=100	個		

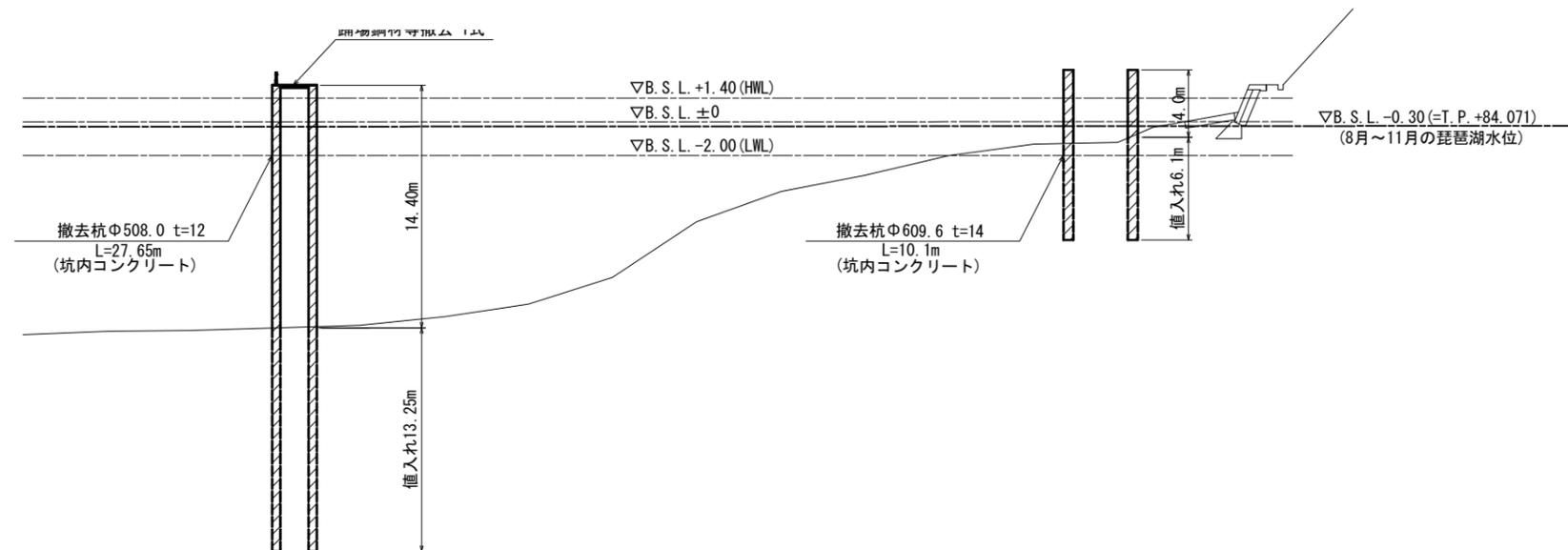
② 鋼管チャック

項目	規格	単位	単価	備考
鋼管チャック運転損料	120kw用	時間		運転1時間当たり換算損料

鋼管杭等撤去工 平面図 S=1:200



鋼管杭等撤去工 横断面 S=1:200

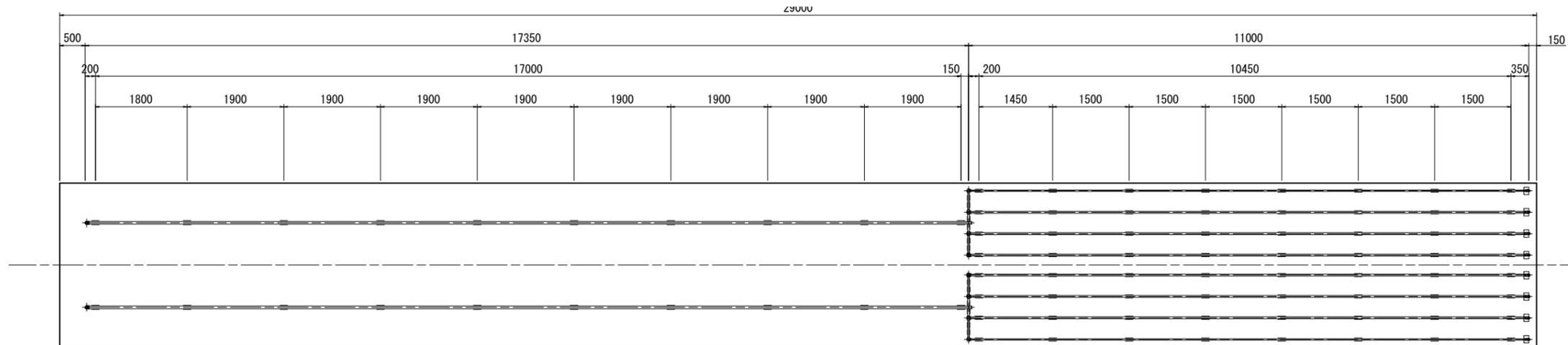


琵琶湖基準水位 B.S.L. ±0=TP+84.371

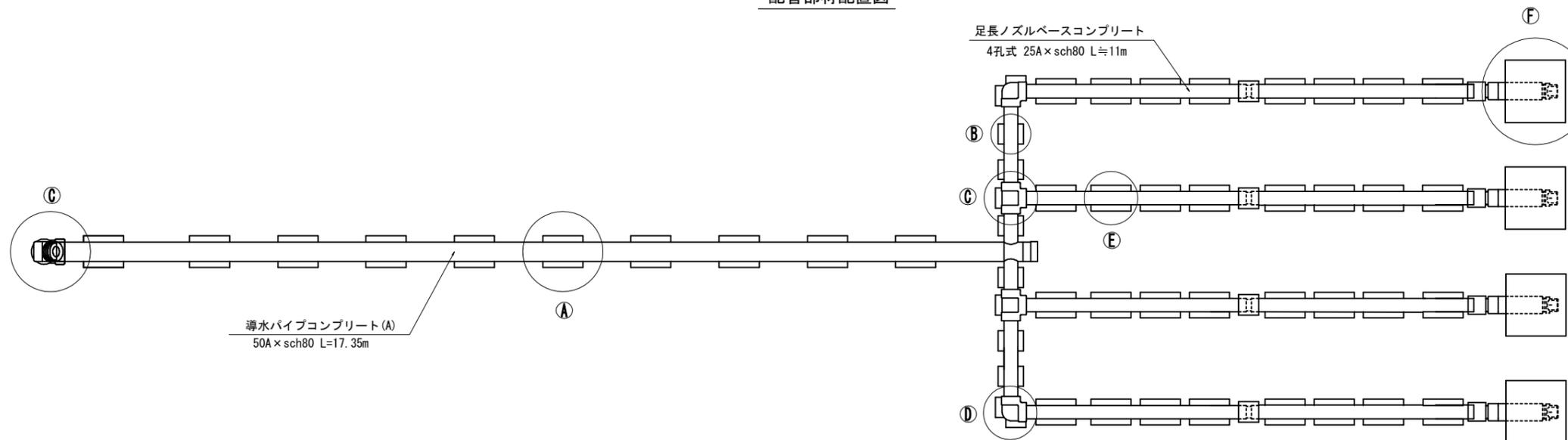
工事名	
名称 鋼管杭等撤去工 平面図・横断面 縮尺図	
登録番号	整理番号
独立行政法人 水資源機構 琵琶湖総合管理所	

ウォータージェット配管部材取付図

配管部材取付図



配管部材配置図



A部詳細図

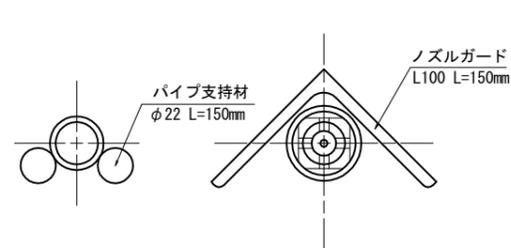
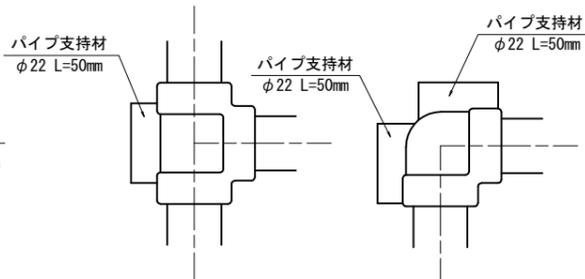
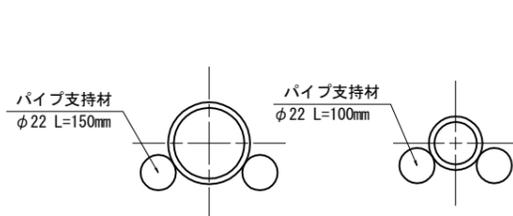
B部詳細図

C部詳細図

D部詳細図

E部詳細図

F部詳細図



部材名称	規格	単位	数量
足長ノズルベースコンプリート	4孔式 25A x sch80	基	2
導水パイプコンプリート (A)	50A x sch80	本	2
パイプ支持材	φ22 L=50mm	個	14
パイプ支持材	φ22 L=100mm	個	24
パイプ支持材	φ22 L=150mm	個	168
ノズル保護材	L100 x L=100mm	個	8

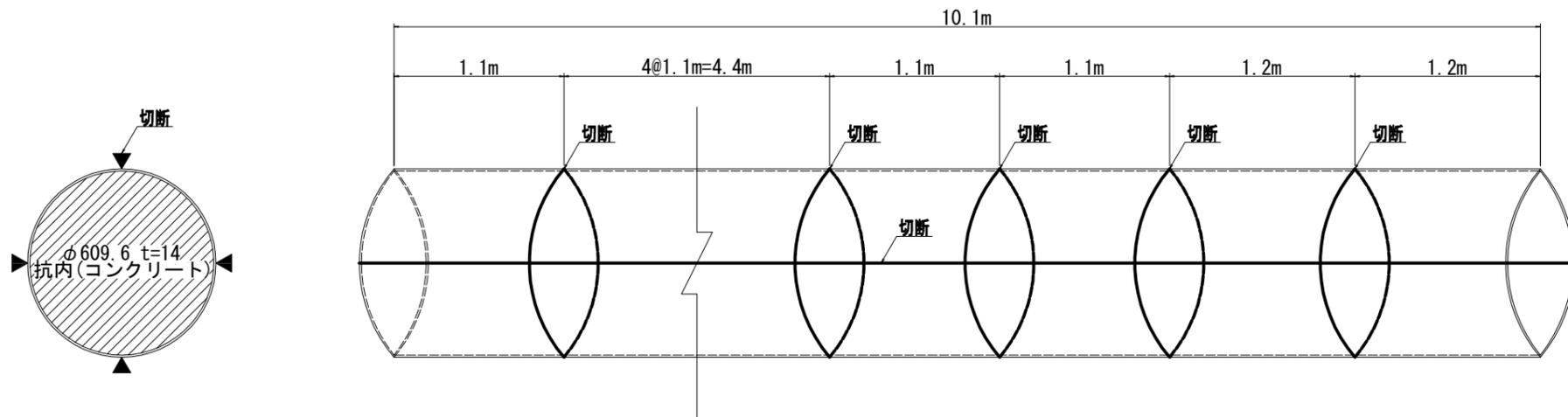
工事名	
名称 ウォータージェット配管部材取付 縮尺図	
登録番号	整理番号
独立行政法人 水資源機構 琵琶湖総合管理所	

撤去物処理工 参考図

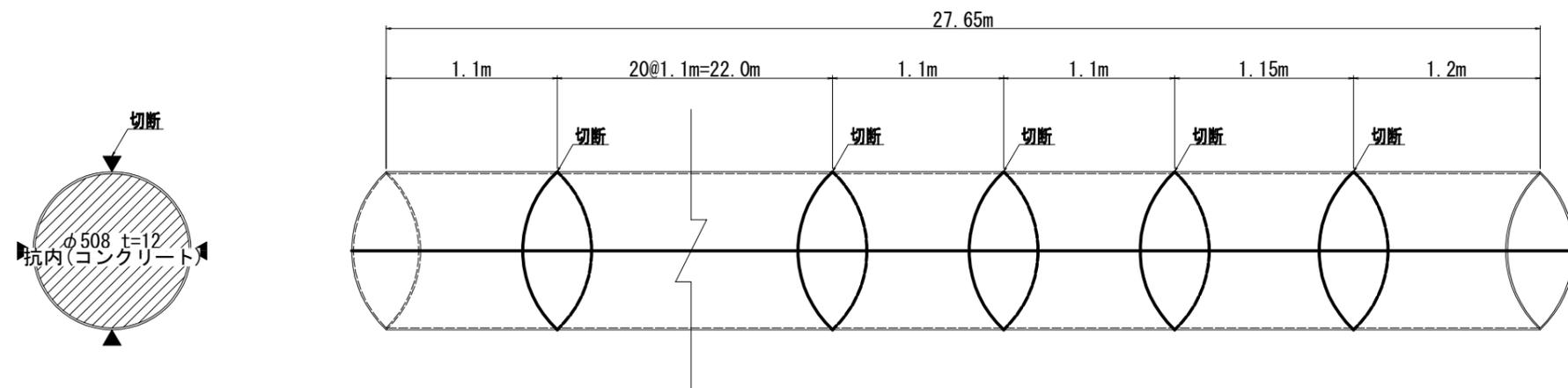
揚陸後の既設鋼管杭 取り壊し施工

- ①鋼管杭を縦方向に4箇所切断する。
- ②鋼管杭φ609.6については、横方向に8箇所切断する。
- ③鋼管杭φ508.0については、横方向に24箇所切断する。
- ④横方向の切断箇所をコンクリート圧砕機にて挟み込んで分割化する。
- ⑤縦方向の切断線に沿ってコンクリート圧砕機にて破碎する。
- ⑥大割出来たコンクリート塊(鋼管片付き)をコンクリートブレーカー等で細かく破碎し、鋼管片と分離する。
- ⑦コンクリート塊と鋼管片を分別し、処分する。

局舎鋼管杭



採水塔鋼管杭



琵琶湖基準水位 B.S.L. ±0=TP+84.371

工事名	
名称	撤去物処理工 参考図
登録番号	整理番号
独立行政法人 水資源機構 琵琶湖総合管理所	

鋼管杭撤去工事施工ステップ図

【準備工】

【仮設工】
(汚濁防止フェンス設置)

【踊場鋼材等撤去】

【鋼管杭撤去】
(外挿管打込み・引抜き/撤去杭引抜き)

【鋼管杭運搬】
(鋼管杭積み込み・長命寺川揚陸施設へ運搬)

【集積・運搬・処分】
(各処理施設へ運搬)

【後片付け】
(清掃等)

- ①鋼管杭撤去工事のベースマシンとなるクローラークレーン(120t)の運搬・組立を実施。
- ②分割して搬入した外挿管(φ800.0mm×t12mm)の溶接を実施。
- ③鋼管杭撤去工事に必要となる外挿管(φ800.0mm×t12mm L=29.00m W=6.76t)にジェット配管部材の溶接を実施。

- ①局舎・採水塔既設鋼管杭等を囲むように汚濁防止フェンスを設置。(右図参照)

- ①踊場鋼材等撤去の撤去を実施。

- ①鋼管杭の引抜きは、外挿管(φ800.0mm×t12mm L=29.00m W=6.76t)を用いて地盤と鋼管杭の縁切りを行うこと。
- ②外挿管の規格は、最長となる採水塔側で決定しており、局舎側との使い分けは行わないものとする。
- ③鋼管杭の杭は、杭1本全てを引抜く計画とする。

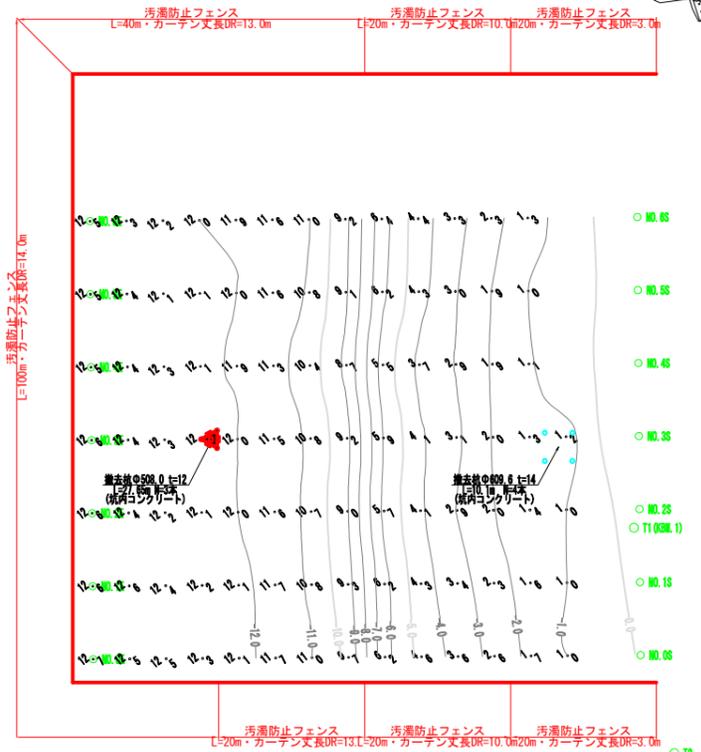
- ④鋼管杭撤去における施工フローは下記のとおりとする。(右図参照)
STEP①：外挿管打込み
STEP②：外挿管引抜き
STEP③：外挿管仮置き
STEP④：パイロチャック入れ替え(撤去杭径用)
STEP⑤：撤去杭引抜き
STEP⑥：杭等運搬用台船(鋼400t積)に積み込み
STEP⑦：パイロチャック入れ替え(外挿管径用)→STEP①へ

- ①資材船荷下ろしのベースマシンとなるクローラークレーン(100t)の運搬・組立を実施。

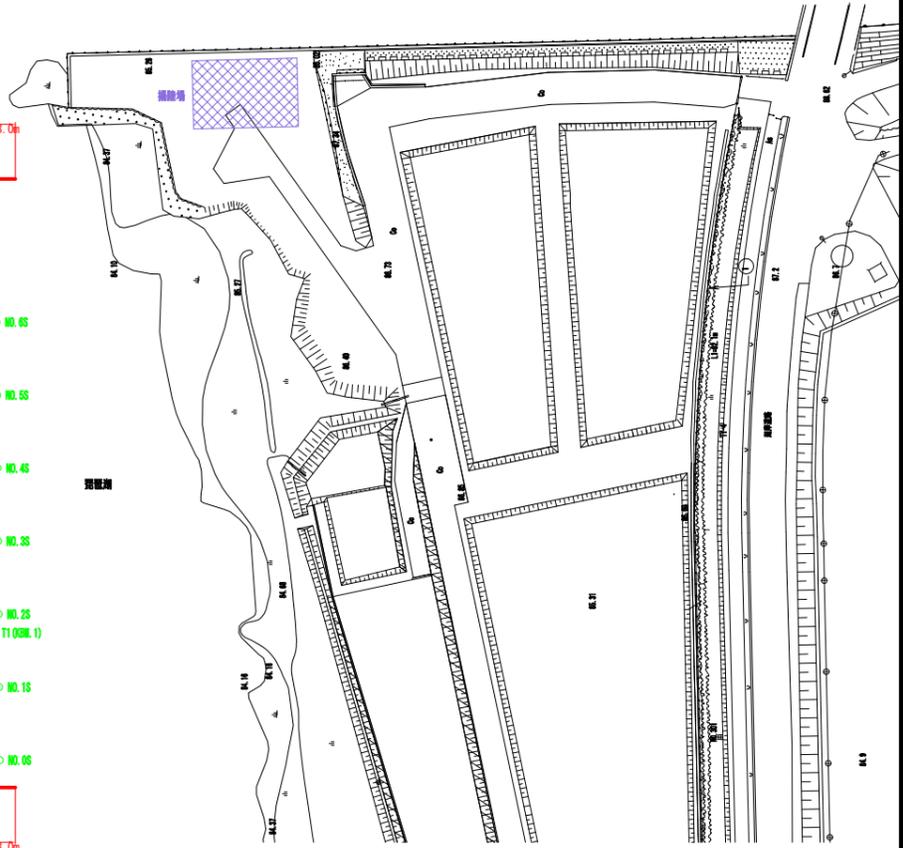
- ①鋼管杭の解体はガス切断にて行い、スクラップ場の受け取り長 L=1.2mに切断。
- ②有価物は及び産業廃棄物は各処理場に運搬する。

- ①鋼管杭撤去工事のベースマシンとなるクローラークレーン(120t)の分解・運搬を実施。
- ②外挿管の切断を実施。
- ③資材船荷下ろしのベースマシンとなるクローラークレーン(100t)の分解・運搬を実施。

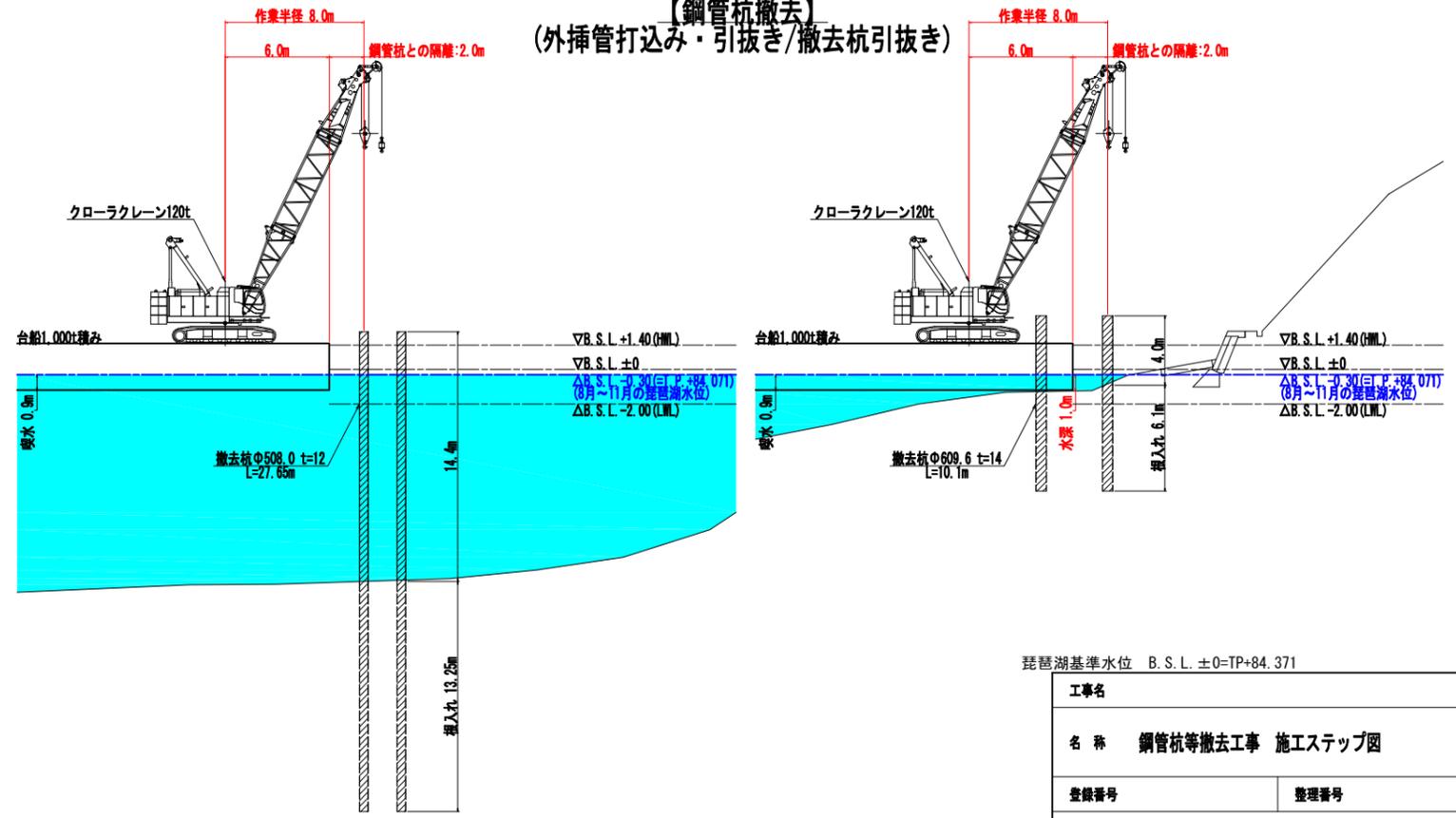
【仮設工】(汚濁防止フェンス設置)



【鋼管杭運搬】(鋼管杭積み込み・長命寺川揚陸施設へ運搬)



【鋼管杭撤去】
(外挿管打込み・引抜き/撤去杭引抜き)



琵琶湖基準水位 B.S.L. ±0=TP+84.371

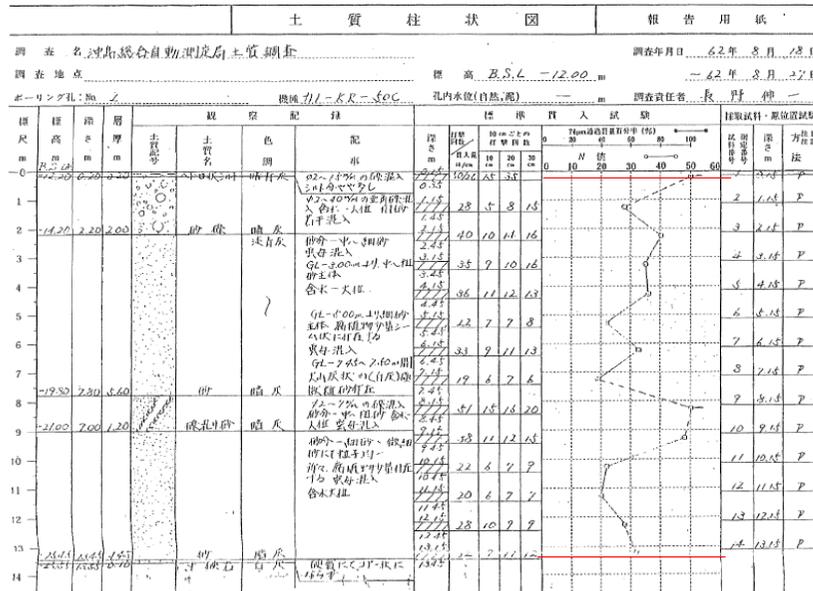
工事名	
名称	鋼管杭等撤去工事 施工ステップ図
登録番号	整理番号
独立行政法人 水資源機構 琵琶湖総合管理所	

(参考資料) バイプロハンマ施工時 基本諸条件

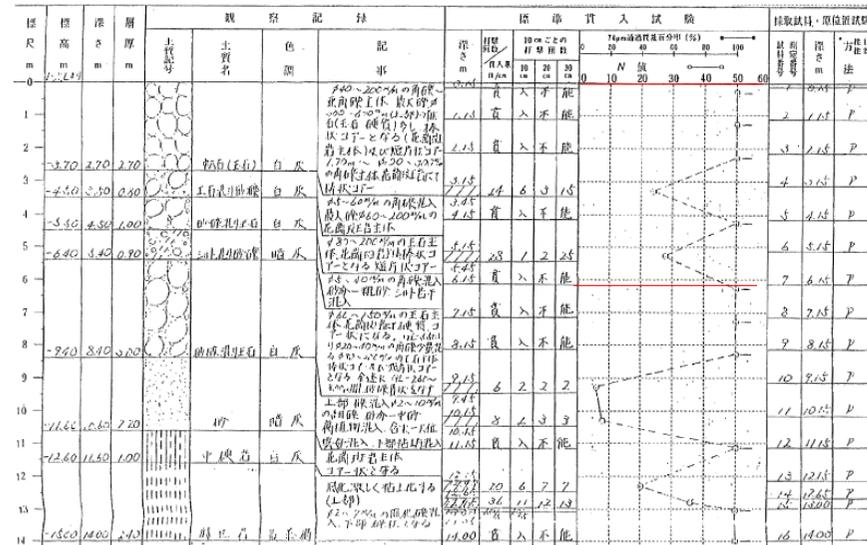
外挿管	φ800.0mm×t12mm L=29.00m W=6.76t 外挿管根入長=既設鋼管杭根入れ長+1.0m
局舎側鋼管杭	φ609.6mm×t14mm L=10.10m N=4 本 W=8.25t/本(鋼管2.08t+内部Co6.17t) 鋼管杭根入長=6.10m
採水塔側鋼管杭	φ508.0mm×t12mm L=26.75m N=3 本 W=15.76t/本(鋼管4.06t+内部Co11.70t) 鋼管杭根入長=13.25m
各層への打込条件 (局舎側外挿管打設時)	γ1(L=0m) + γ2(L=7.10m) + γ3(L=0m) + γ4(L=0m) N1=対象外、N2=15(η=3)、N3=対象外、qu=対象外
各層への打込条件 (採水塔側外挿管打設時)	γ1(L=14.25m) + γ2(L=0m) + γ3(L=0m) + γ4(L=0m) N1=32、N2=対象外(η=対象外)、N3=対象外、qu=対象外

凡例

- γ1: 砂・砂質土・レキ質土への打込み対象延長
- γ2: 玉石混りレキ層への打込み対象延長
- γ3: 粘性土・固結土への打込み対象延長
- γ4: 岩盤層への打込み対象延長
- N1: 砂・砂質土・レキ質土の根入長に対する加重平均N値
- N2: 玉石混りレキ層の根入長に対する加重平均N値
- N3: 粘性土・固結土の根入長に対する加重平均N値
- qu: 岩盤層の加重平均一軸圧縮強度 (N/mm)
- η: 補正係数



採水塔 土質柱状図



局舎 土質柱状図